

第20年度 事業計画

事業の目標

「地域・社会や活動、ひろばで、安心してよりよい人間浴ができるように。」
(活動での人間浴から、地域の隅々まで人間浴ができる環境に。)
⇒事業を通じ、子どもや地域と関わり、育ち合える環境づくり

前々年度から3年目となる、「まちに子どもとともにだれもが育ち合える人があふれるように。活動での人間浴から、地域の隅々まで人間浴ができる環境に。」に取り組んでまいります。昨年度は、地域との関わりも増え、山科醍醐こどものひろばについて改めて地域の方々に「知ってもらう」「伝える」ことは前進し、お問合せも増えましたので、さらにすべての事業が地域とつながり、山科醍醐こどものひろばの事業を様々な場面で体感できる取り組みを増やしていきたいと考えています。一方で昨年度あまり、山科醍醐こどものひろばの歴史、事業変遷、活動に関わる方々、大事にしてきた「想い」や「文化」を組織内部で確認することや、地域や社会に伝える部分では不十分であったため、活動だけでなく、そのなかにある「想い」「共通価値」についても「伝え」ていけるように取り組んでいきたいと思えます。さらに今年度は移転など大きな支出などがあるわけではないですが、さらに改修、備品購入などの経費や、新しいアイデアを事業化していく際のチャレンジの追い風とできるように、活動準備金などの積み立てなど財政基盤の強化に今後も取り組んでいきます。昨年引き続き、地域の子どものもとにもあり続けてきた団体として、さらにまちにあり続けることができることと、そこにどのような文化（大事にしたいこと）を打ち出せるかがこれからの時代において必要だと考えています。

以下は、前年度に立てた項目に対し、今年度さらに取り組むことについての方向性となります。

事業展開

①子どもが安心してふれあえる人がまちにあふれるアクション

より多くの事業の特徴を生かし、どの事業でも必要とされる地域に届け直したいと思えます。また、連携事業などを通じ、地域で活動する人たちにひろばの思いを伝えていきます。そして、地域内での子どもに関する勉強会の開催の声も多いため、地域との交流の機会をもちたいと思えます。

地域の子どものたちは活動のことは知っているが、こどものひろばは知らないということもあるため、一緒に活動をつくることができるようになるためにも、山科醍醐こどものひろばを知ってもらうことに取り組み、各活動の魅力などを地域に届けることに取り組みます。

②活動実施場所の拡大（開催エリアを意識）

新げんきスポットを中心に周辺地域との連携。全小学校区で子どもと出会う仕組みづくりを行ないます。

昨年アンケートを実施したこともあり、山科・醍醐地域では、現在行なっている各学校との連携の相談も増えています。醍醐地域では、社会福祉協議会、民生児童委員協議会（醍醐ブロック）、区役所などとの連携も活発であるため、各小学校区での子どもの活動づくりを行なっていきます。

また、保育所や福祉施設、カフェなどを利用した連携事業は今後も取り組み、公的なネットワークと民間のネットワークを重層的にし、地域の子どものたちの育ちの環境の充実を図ります。

③子ども、わかもの、おとな、地域、専門家、行政など様々な対象に届く情報周知やコミュニケーションの充実

組織基盤・内部連携

④山科醍醐こどものひろばがだれもが活かせる方法の打ち出し

内部での各事業ごとの説明会などを内部研修の一環として取り組みます。

げんきスポットも新しくなったこともあるため、改めて運営・使用などのルール、財務や事業管理などの効率化、制度に応じたルールづくりとその浸透を引き続き行なっていきます。

現体制2年目となるため、これまで活動を作ってきた人たちの思いや新しく関わる人の思いやアイデアの共有できる機会づくりにも取り組みます。

⑤ボランティア中心事業と専門性が必要な事業など各事業の連携

フェスタ以外では、全事業や一部の事業連携などができていません。各事業のそれぞれのよさを生かすことができるだけの意見交換やコミュニケーションを重ねていきます。

今年度はさらに各事業の特性や魅力などをお互いが理解し合い、必要に応じて連携事業に取り組める土壌づくりを行なっていきます。(前述研修なども含む) また地域イベント出展などでも合同で参加するなどの機会を生かし、事業間交流を図っていきます。

さらに、昨年度に引き続き専門性が高い事業や収益性を伴う事業、これまで取り組みが少なかった若者世代の生活支援などについても地域のニーズが高いですが、山科醍醐こどものひろばが事業の数を増やすということだけではなく、必要に応じ、運営体制を分けることにも取り組みます。今後長期的に安定して事業が行なえる基盤づくりにも着手していきます。(例：公共施設の指定管理、小規模保育、芝居小屋など拠点での収益事業など)

⑥会員・ボランティアの交流強化(会員数を増やす。)

連携事業も増え、活動への理解も広まりつつあるなかで、今後より充実した実践を行なうために、地域のなかの支援会員が増えていくように、働きかけを行なっていきます。

第20年度 各事業計画

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
舞台芸術 鑑賞活動	演劇部ぼっぴ・こーん公演	8月23日 2月	安朱保育園 京都府立 文化芸術会館	4	地域の 子どもと大人 のべ500人	700
子どもが自 ら創る体験 活動事業	Jr. キャンプ 小学生3年～中学3年対象で年間 を通じての子どもと企画をした体 験活動を行う。	通年	地域一円	10	地域の子ども 40人	166
	こどもフェスタ 当法人主催の子ども主体の「祭 典」を実施する。	4月	本願寺 山科別院	150	地域の 子どもと大人 700人	—
	わんぱくクラブ 幼児・低学年の子ども達を対象 に、舞台鑑賞や野外活動を実施 する。	通年	地域一円	8	地域の子ども 30人	390
	山科醍醐こどもの創作劇「体験 ワークショップ」 ぼっぴ・こーんの公演鑑賞と体験 ワークショップをセットにした企画。	8月、9月、2月	勧修寺公会堂他	4人	地域の 子どもと大人 のべ60人	100
	町たんけん 地域を知り、その中の出会いから 人と人がつながり、より良い地域 になることを目指す。山科かるた や、ガイドブックを普及させ、有効 活用できるように、小学校を巻き 込んだ活動を始める。 ※山科“きずな”支援事業補助金	通年(小学生との 町たんけん活動は 夏～春)	地域一円	10人 (スタッフ・ ボランティア・ 講師)	小学生15名 山科かるた冊など を児童・区民約50 0名に配布 学校訪問参加児童 数約150人	615 (助成金210)
子育てサ ポート事業	あそびっこクラブ 未就園児を持つ親と、その子ども 達のサポート活動。地域の保育所 やお寺を会場にして活動する。 同窓会として親子で集う場を設け る。	通年	地域一円	3	家族12組	70
	げんきスポット0-3(ぜろさん) 未就園児を持つ母と、その子ども 達のサポートを常設会場「げんき スポット」にて実施する。屋根のあ る公園を目指す。 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜日	げんきスポット	8	地域の 子どもと大人 のべ6500人	6807 (委託金6219)
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手なこどもや、学習 機会の少ないこども、また経済的 等の理由で体験活動の機会がな いこどもへの個別(生活・学習・余 暇)支援事業。	通年	地域一円	40人	地域の子ども: のべ200人	—

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
子育てサ ポート事業	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手な子どもや、学習 機会の少ない子ども、また経済的 等の理由で体験活動の機会がな い子どもへの個別(生活・学習・余 暇)支援事業。 ※京都地域創造基金事業指定助 成事業	通年	地域一円	40人	地域の子ども: のべ200人	6650 (助成金4000)
	山科醍醐地域ひとり親家庭等へ の生活・学習・居場所サポート事 業 伏見区醍醐・小栗栖地域を中心 に、小学校高学年の子どもとその 家族へのサポートを行う。 ※京都府委託事業	通年	地域一円	40人	子ども: のべ300人 保護者: のべ15人	8350 (委託金8350)
	ゆめ・まち基金事業 不登校を中心とした集団や学校に 馴染めないなどの困りごとを抱え る子どもを対象に、家庭訪問型支 援や余暇支援に取り組む。	通年	地域一円	10人	地域の子ども: のべ20人	500 (助成金500)
	外部保育受入事業 外部団体からの保育依頼を受け 入れる。	通年	京都一円	5	—	—
ボランティ アサポー ト事業	ボランティア・研修部 ボランティア希望者の、各事業へ のコーディネートを行なう。 ボランティア活動に参加する際 の、子どもとのかかわり方や、参 加者が希望する内容の研修会を 定期的実施する。	通年	当法人事務所	4	—	—
	講師派遣・インターンシップ受入 事業 当法人スタッフの講師派遣及び当 法人におけるインターン希望者の 受入を行う。	通年	地域一円	4	—	—
	のびのび@たいむ のびのび事業の利用を終えた高 校生等の居場所とボランティア推 進事業。	通年	地域一円	5	のべ60人	—
広報・出版 事業	コッペパン 広報誌「コッペパン」の発行 ※共同募金	季刊	—	2人	1000部4回	40 (助成金30)
	ひろばつうしん 会員向け情報誌「ひろばつうしん」 の発行。 イベントや活動の参加募集チラ シ、外部団体のチラシなども発 送。	月刊	—	—	150部を12回	—
	ひろばの本 「貧困とひとりぼっちのないまち」 の頒布を通じて、ひろばの広報や 社会への啓発を進める	通年	—	—	—	256
	サポートBOOK 「子どもの貧困課題に地域で取り 組む支援者のアクションサポート BOOK」の頒布、活用。 読書会の開催。	通年	—	—	—	100

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
広報・出版 事業	ホームページ 当法人におけるホームページの 定期的な更新情報の発信及び、 基本情報の公開を行う。	通年	-	-	-	-
ネットワーク づくり事業	分野連携ボランティアネットワーク 事業 当法人登録ボランティアと子ども 分野の活動団体とのネットワー クづくりを行う。	通年	-	-	-	-
	山科子育て応援団 社会福祉協議会を事務所として 山科で子育てサークルや子育て 支援をしている諸団体との交流を 行う。子育て支援サロンを開催す る。	5月 ～ 3月 年間10回	社会福祉協議会 他	13 (ひろば内3)	のべ300	-
	遊びのアウトリーチ事業 小学校の放課後に、大学生や地 域の方と遊びを通して、関わる機 会をつくる。	通年	地域小学校	1	のべ400	70
	勤修中学校区 こどもの学びサ ポートプロジェクト 山科青少年活動センター、山科区 社会福祉協議会、勤修中学校等 連携事業 ※ベネッセこども基金	通年	勤修中学校区	2	-	1123 (助成金1123)
	小栗栖・醍醐・新規 中3勉強会 生活保護受給者等中学生学習支 援プログラム	通年	醍醐事務所 トハウス 醍醐支所	15人	6人 5人 20人	1,006
	みんなの家 フリースペースとして開放。 (主催：社会福祉協議会)	第1、第3、第5 月曜日	こども生活支援セ ンター	2	-	-
	企業との連携 企業からのボランティア体験の受 け入れや、イベントでのボランテ ィア呼びかけなど。	通年	-	2	-	-
	ランランおでかけひろば 会員同士の交流、支援会員その 家族も含む。	年2回	未定	2	25	2
	京都市子どもの居場所づくりアド バイザー事業 子どもの居場所づくりをしている個 人・団体への相談・研修を行なう。 ※京都市の委託事業	通年	京都市内			2,900